

## ミニバスケットボール競技規則の一部改正

### 第3章 審判とテーブル・オフィシャルズ

#### 第12条 30秒オペレーター

30秒オペレーターは30秒ルール〔第37条〕用の装置またはストップ・ウォッチを使って秒数をはかり、ボールを保持しているチームが30秒以内にショットをしなかったときには合図をする。

30秒はどちらかのチームがコート内でボールを保持〔第26条〕したときからはかり始める。

30秒は次の時に終わる(30秒をリセットする)

- (1) ボールがシューターの手から離れ、バスケットに入るかリングに触れたとき(ショットされたボールがリングに触れたとき)
- (2) 相手チームがボールを保持したとき
- (3) ボールを保持しているチームの相手チームのファウルやヴァイオレイション(アウト・オブ・バウンズを除く)があったとき
- (4) ボールを保持しているチームの相手チームに原因のある理由でゲームが止まったとき
- (5) 審判がどちらのチームにも関係のない理由でゲームを止めたとき

30秒が継続されるとき(30秒をリセットしない)

次のことが起こった結果、それまでボールを保持していたチームに引き続きスロー・インのボールが与えられるときは、30秒を止めるがリセットしない

- (1) ボールがアウト・オブ・バウンズとなったとき
- (2) ボールを保持しているチームのプレイヤーの負傷などで審判がゲームを止めたとき
- (3) ジャンプ・ボール・シチュエーションになったとき
- (4) ダブルファウルが宣せられたとき

黄色と赤色の小旗を使って30秒の経過を表示するときは、15秒から24秒までは黄色、25秒から30秒までは赤色で表示する。

### 第6章 プレイの規定

#### 第37条 30秒ルール

コート内でボールを保持したチームは、30秒以内にショットをしなければならない。

30秒たってもショットをしないうちはヴァイオレイションであり、相手チームにスロー・インのボールが与えられる。

### 注解

第37条 ショットされたボールが空中にある間に30秒の合図が鳴ったとき

- (1) ボールがバスケットに入ったときは、得点が認められる。
- (2) ボールがリングに触れたときは、ボールがバスケットに入らなくてもゲームはそのまま続けられる。
- (3) ボールがリングに触れなかったときは、30秒のヴァイオレイションとなる。30秒のヴァイオレイションを宣したときは、シューターの位置からもっとも近いアウトで、相手チームのスロー・インとする。

ただし、ボールがリングに触れなくとも、リングに触れなかったそのボールを相手チームのプレイヤーが明らかに直接保持することができたと審判が判断した場合は、ヴァイオレイションを宣さずにゲームをそのまま続けてもよい。

ゴール・テンディングおよびインターフェアの規定は、30秒の合図が鳴ったあとでもすべて適用される。

### 第7章 規則違反と罰則

#### 第40条 スロー・インの位置と方法

ファウル、ヴァイオレイション、ヘルド・ボールが宣せられたあと、サイド・ラインまたはエンド・ラインのアウトからスロー・インするプレイヤーは、審判に指示されたところからスロー・インする。

審判はスロー・インするプレイヤーにボールを直接手渡すか、スロー・インするプレイヤーが審判に指示された位置にいる場合は、トスまたはバウンズ・パスで投げ与えてもよい。

- (1) スロー・インするプレイヤーは、アウトでボールを与えられてから5秒以内にコート内にボールを投げなければならない。
- (2) スロー・インするときに境界線を踏んでもよいが、コート内に触れてはならない。
- (3) コート内のプレイヤーは、ボールがコート内に投げ入れられるまでは、境界線の上方またはそれをこえてからだのどの部分も出してはならない。
- (4) スロー・インのボールを手放す前に、審判に指示されたところからライン沿いに1mを超えて移動すること。一度移動してから逆の方向に移動し直しても差し支えない。ただし、ライン沿いに移動する幅が1mを超えた場合は、ヴァイオレイションとなる。

これらの規定が守られなかったときには相手チームにスロー・インのボールが与えられる。

しかし、審判は注意を与えてスロー・インのやり直しをさせることもできる。

相手チームの得点のあとエンド・ラインのアウトから行われるスロー・インのときは、原則として審判はボールを扱わない。スロー・インするプレイヤーは、エンド・ラインのアウトのどこからスロー・インしてもよい。